

# こどもと健康

NO・145

2014・4・14

## インフルエンザの流行、終息へ！

今年の大阪府でのインフルエンザの流行は年末の最終週から始まり、1月27日からの第5週に定点当たり、30.3と警報レベルを越えましたが、次第に減少して第8週には19.2となったものの再び増加しました。堺市ではこの週からAH1pdm09（5年前に大流行した所謂新型）からB型が流行の中心となり、一時的に増加しましたが、3月になって次第に減少、春休みと共に急速に減少して3月31日からの第14週には定点当たり4.8、堺市4.1となりました。新学期になって若干増加するかも知れませんが、このまま終息に向かうものと思われれます。しかし、全国的には第14週で6.1と注意報レベルを下回りましたが、青森県、岩手県12.3、福井県12.2と5県で注意報レベルを越えて流行が続いていますので、暫く注意が必要です。今シーズンのインフルエンザ流行の主役は5年前に新型インフルエンザとして大流行したAH1pdm09が5年ぶりに流行して46.1%を占め、次いでB型30.6%、AH3香港型23.4%でした。昨秋から3月までに全国でインフルエンザに罹患した人は1446万人に及ぶと推計されています。5年前の新型流行時には呼吸障害などの重症者が多かったので心配されましたが、今シーズンは少なく済みました。ワクチン接種により免疫が発病を阻止できるレベルには達しなかったけれども症状は軽く済んだと考えられます。来シーズンもワクチン接種を受けようしましょう。

## みずぼうそうワクチン定期接種化！

昨年の予防接種法改正で定期接種となる予定のみずぼうそうワクチン、おたふくかぜワクチン、B型肝炎ワクチン、成人用23価肺炎球菌ワクチンのうち、みずぼうそうワクチンと成人用23価肺炎球菌ワクチンが4月から定期接種化されました。各市町村の準備等がありますので、堺市では10月から接種開始となります。みずぼうそうワクチンの対象年齢は1歳児と2歳児で2回接種（6ヶ月間隔を推奨）、本年度（平成27年3月31日まで）に限り、3、4歳児は1回接種が可能となります。

みずぼうそうに一番罹りやすいのは1歳児ですので、1歳のお誕生日になったらMR（はしか・風疹混合）ワクチンと同時にみずぼうそうワクチンを接種しましょう。現在保育所にいっている1歳児は1回目は自費でも早く接種した方が安心です。

「はしか」で亡くなる方はこの数年ありませんが、「みずぼうそう」や「おたふくかぜ」では毎年5名程度は亡くなります。1歳になったら必ず接種しましょう。

みずぼうそうワクチンは日本でつくられたワクチンで副反応も少なく、接種後2週間前後に僅かに発疹が出る程度の安全なワクチンです。予約の上、接種して下さい。

# 風疹の抗体検査と予防接種を！

風疹は子どもが罹っても軽症で済むケースが多いのですが、成人が罹患すると症状も強く、特に妊娠初期に感染すると白内障、難聴、心疾患などの先天性風疹症候群のベビーが高率に生まれます。一昨年秋から風疹の流行が始まり、昨年は全国で14,357名が罹患しました。合併症として昨年には風疹脳炎が13例（一昨年5例）、血小板減少性紫斑病が63例（一昨年13例）報告されました。堺市でも309例の風疹報告があり、一昨年の約7倍になりました。患者の増加に比例して先天性風疹症候群が急増、一昨年の4例から昨年は32例、今年も3月までに8例の報告がありました。幸い、今年になって風疹の流行は収まりつつありますが、例年春から流行しますので、油断できません。

堺市では、20歳以上の（1）妊娠を希望する女性とその同居者と（2）妊婦の同居者を対象に風疹の抗体（免疫）の有無を保健センター（南保健センターは南区役所4階に移転しました）で無料で検査が出来ます。抗体がない場合、風疹ワクチン又ははしか・風疹混合ワクチンを自己負担金1000円で接種できます。ご希望の方は電話で予約をしてください。

尚、この制度は平成27年3月31日迄です。

# B型肝炎ワクチンを接種しましょう！

肝炎ウイルスには昔、流行性肝炎と言われたA型肝炎ウイルスを始め、近年社会問題となっているB型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス等があります。B型肝炎は血清肝炎とも言われ、輸血等血液を介して感染することが多いのですが、最近の研究では血液だけでなく、唾液、汗、涙、尿、精液にもウイルスが存在することが判明しました。日本人の1%程度には症状のないキャリアー（健康保菌者）がいますが、キャリアーは数年～数十年後に肝炎から肝硬変、肝臓がんになります。日本では年間3万人が肝臓がんで亡くなると言われますが、その3分の1はB型肝炎によるものです。1992年WHOは加盟国にB型肝炎ワクチンの接種を勧奨し、現在では加盟193カ国中177カ国で定期接種化されています。残念ながら、日本は数少ない国の一つですが、定期接種化していない国は北欧を中心にキャリアーの殆んど存在しない国です。幼少期に感染を受けるとキャリアー化しやすいと言われており、生後2か月から接種している国が大部分です。日本でも任意接種（有料）ですが、生後2か月から接種できます。この月齢はヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン、ロタワクチン（任意）、4種混合ワクチン等がありますので、これらのワクチンの1期初回が終了してからのほうが良いと思います。

尚、堺市では20歳以上40歳未満の方、40歳以上でも職場検診等で肝炎ウイルス検査の機会がなかった方を対象に肝炎ウイルス対策事業を行っています。無料でB型肝炎ウイルスはHBs抗原検査を、C型肝炎ウイルスはHCV抗体検査を実施し、陽性者は指定医療機関で精密検査を行います。対象年齢の方でご希望の方はお申し出下さい。過去に検査を受けた方は除きます。

# かたぎり小児科ホームページ！

<http://www.katagiri-shounika.com/> 又は、「堺市 かたぎり小児科」で 検索。

# 小児用肺炎球菌ワクチンの補助的追加接種！

昨年4月から定期接種となった小児用肺炎球菌ワクチンが11月から7価から13価ワクチンに強化されました。93種ある肺炎球菌のうちこれまでは7種でしたが、13種が入ったワクチンが接種できるようになったのです。1回でも7価ワクチンを接種した場合も、11月1日以降に接種する時には13価ワクチンを接種します。初回3回と追加接種の4回接種は変わりません。尚、既に7価の接種が終了した6歳未満の幼児も残りの6種の免疫をつける為、1回だけ任意接種（有料で12000円）を受けることができますので、ご相談下さい。

肺炎球菌はありふれた細菌ですが、乳幼児が罹ると髄膜炎、敗血症、肺炎等の重症肺炎球菌感染症となり、命にかかわることがあります。肺炎球菌は常在菌と言われ、保育所園児のノドを検査すると4カ月児17%、7カ月児28%、10か月児36%、1歳6カ月児48%が保菌者であったというデータもあります。保菌者は無症状ですが、免疫力が低下すると、発病することがあります。7価の小児用肺炎球菌ワクチンが公費負担で接種が始まって3年経過しました。ワクチンに含まれる7種による重症感染症は10分の1以下にまで減少しましたが、ワクチンに含まれないものは変化がありません。生後10カ月までに半数が3歳までに80%が一度は保菌すると言われます。既に接種が完了していても集団生活をしている6歳未満児は1回接種（補助的追加接種といいます）を受けるようにしましょう。尚、高齢者に接種される成人用23価肺炎球菌ワクチンは全く別物ですので、小児には接種できません。

## 「はしか」に気をつけましょう！

MRワクチンの接種率の向上で一時大流行した「はしか」が影をひそめ、全国で一昨年300名余、昨年には200名余と激減、堺市ではこの5年間「はしか」患者さんはゼロでした。所が、今年になって2月26日までに全国で119名の報告があり、その発端者の多くは輸入例で特にフィリピンからのケースが多いようです。半数近くが成人例ですが、MRワクチン接種前の0歳児13%、未接種の1～4歳児が21%となっており、1歳のお誕生日が来たら早めの接種をお願いします。4月に入学予定の年長組の2期MRワクチン接種率が2月末で7割程度しかありません。3月31日までに必ず接種しましょう